

コロナ新変異株 免疫逃れやすく

「EG・5」置き換わり進む

国内で新型コロナワイルス感染者の緩やかな増加が続く中、新たな変異株「EG・5」系統への置き換わりが進んでいる。過去とは新たな変異株の流行により感染者が急激に増えた事例もあり注意が必要だ。

オミクロン株XBB系統から派生した「EG・5」系統は2月に初めて報告され、世界保健機関（WHO）が8月に「注目すべき変異株」（VOI）に指定した。SARS-CoV-2に感染した場合、別の新たな変

の女神にちなんで通称「エリス」とも呼ばれて高まっているという見聞はないが、これまでのXBB系統と比べて、免疫を逃れやすく、感染しやすくなる可能性がある。

国立感染症研究所によると、国内でも7月から広がり、EG・5系統の一「EG・5・1」は8月7～13日時点

で解析した200検体のうち29%だったが、9月11日の週には58%を占めると推計されている。これに、別な新変異株も確認されている。東京都は7日、都内で初めて多数の変異がある「BA・2・86」系統を確認したと発表した。8月24日に都内の医療機関でPCR検査をした検体から見つかった。

2022年に主流とな

ったBA・2系統から派生し、BA・2系統と比べスマートな質に30以上の変異をもつ。

ワクチンや感染でできた「中和抗体」による免疫から逃れる可能性があり、WHOは8月24日に「監視下の変異株」（VUM）に指定し注視するよう呼びかけている。現時点では重症度の変化に関する知見はない。（神田昌典）